

## 2025年 5月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

- 4月27日(日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会・感話: 永井 徹  
聖書講話: マタイによる福音書 4章1~11節 (1995年3月12日 テープ)  
「イエス、荒野の試みを受ける」 溝口 正
  
- 5月 4日(日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会: 岩田 堯 感話: 武井 めぐみ  
聖書講話: ミカ書 7章7~13節  
「新しい約束」 水戸 潔
  
- 5月11日(日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会・感話: 大手 美千代  
聖書講話: エレミヤ書1章5節 マタイ福音書21章42~43節  
「ハウゲの生涯(後半)」 永井 徹
  
- 5月25日(日) 集会 (クリエート浜松 22号室)  
司会・感話: 武井 陽一  
聖書講話: ルカによる福音書13章31~34節 ロマ書10章12~13節  
「分断を癒やすもの」 坂巻 隆男  
集会後、昼食の弁当を頂き、坂巻隆男さんと交流の時をもちます。  
参加者は 武井めぐみ まで申し込みください。

### 最終的に十字架はどこに立てられるか ヨハネ黙示録20章11~15節 溝口 正

絶対無限愛の神であるが故に、すでにキリストを地上に派遣し、十字架と復活を通して、すべての人の罪をあがなわれた。…このように一方的に差し出された救いの御手を、大多数の人々は、約二千年間も払いのけてきた。この不信仰の傲慢と無知のゆえに、二十世紀末を生きる人類は、最後の審判の近づきつつある予感、すなわち終末の足音を聞きつつあるのである。しかし、くり返し述べたように、神は愛でありたもう。神の愛は、一人の滅ぶことも見逃さないであろう。…彼の絶対愛がこれを阻むにちがいないと私は確信する。義は最終的に愛に吞まれるであろう。

それ故、最後の判決を下す前に、キリストみずから、あらゆる手段を用いて、死に至るまで悔改めなかった人々のために、十字架の福音をたずさえて黄泉にまでも追いかけて、救いへ導く努力を傾倒されるのではなかろうか。そして、最後の法廷において、先にのべたとおり、キリストみずから十字架を立てられ、最後のゆるしの宣言を与えたものではなかろうか、と私はひそかに信じるのである。私は悔改めることなく不信仰なまま死んで行かれた人々に対しても、十字架の福音は必ず有効であると信じたい。だからこそ福音であり、これは愛なりである。最後の審判は、最後の救済となる。それ故に今、「汝ら悔改めて福音を信ぜよ」と叫ばなければならない。

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく御子によって、この世が救われるためである。(ヨハネ福音書3・17) (『復活』1995年9月 第348号)